

第 1 日目 参加型セミナー

「REDD プラスって何? ～植林から REDD プラスへ～」総括

松本 光朗 (森林総合研究所 REDD 研究開発センター長)

このような参加型のセミナーを企画したのは、私も初めてである。多少心配していたが、皆さんには本当に熱心に参加していただき、感動している。

REDD を取り扱う場合、東京スカイツリーのように細くて長い取り組みでは、なかなか社会に広がっていかない。富士山のようなすそ野の広い、どっしりとした活動にしていく必要があると信じている。REDD プラスの話は、REDD プラスという狭い場所にとどまっていればそれで終わってしまう恐れがある。だからこそ、森林保全、熱帯林保全、環境保全、企業側からすると自然資本の考え方、サプライチェーンの考え方という形で、さまざまなエレメントを有機的につなげながら、国民運動のような形ですそ野を広げていきたいと考えている。国際交渉で日本の政府が判断するにしても、それは国民の理解があり、さらに国民の税金を使つての話である。これはグリーン・エコノミーでも全く同じである。消費者、企業側からしても、人ごとではない、自らが参加しているのだ、という気持ちが生まれなければ、そしてそのような仕組みにしていかなければ、環境保全、熱帯林保全といった大きな動きにはならないだろう。今日の取り組みはチャレンジングだったが、非常に良かった。

さらにこれをどう深めていくかは、私たちの仕事でもあるが、皆さんにもそれぞれの立場で考えてアクションに移していただきたい。われわれ REDD 研究開発センターは、それを支援すること、そして一緒に動いていくことをお約束する。